



プレス資料



ラグビーワールドカップ2023
日本代表 ベースキャンプ地*がトゥールーズに決定
2022年5月20日(金)

*組織委員会による公式名称：
チームベースキャンプ



La Région
Occitanie
Pyrénées - Méditerranée

ご挨拶

“本日、オクシタニー地方がラグビーワールドカップ2023に出場する日本代表によりベースキャンプ地に選ばれたとの知らせを受け、とても光栄に感じています。この選択は偶然に起きたものではありません。わが地域圏は、観光と経済、更には文化、教育と研究、そしてもちろんスポーツといった分野において日本との強い絆を共有しており、とくに私が議長に就任した2016年以来、その関係強化を望んできたからです。

スポーツ担当副議長のカメル・シプリと共に、ワールドカップ前大会が開催された2019年に東京へ趣き、日本の関係各位とお会いしてから、ここ、ラグビーの大地たるオクシタニーを日本チームの拠点として頂くよう、勧誘を重ねてまいりました。こうした取り組みは今日になって実を結び、わが地方のスポーツインフラの質や、地域の魅力が世に知られることとなりました。ワールドカップは、日本代表とそのサポーターの皆様にとって、オクシタニーの豊かさ、つまりライフスタイルから息をのむような景観まで、また食、伝統工芸に至るまで、そのすべてに触れていただく素晴らしい機会となることでしょう。

オクシタニー地方は、ラグビーワールドカップ2023組織委員会と共に皆様をお迎えし、大会を成功させ、これをとくに若い世代を中心とする地域全域の人々にとっての祭典とする用意ができております。なぜならオクシタニーは「ラグビーの地」だからです。この地方では、ラグビーが日曜日ごとにすべての世代を1つにし、その価値観が地域にあまねく浸透しています。取り組み、団結、克己心、分かち合いの精神によって人々が結びつけられるように、ラグビーは、オクシタニーの鍵となる価値観全てを具現化しているのです。”



キャロル・デルガ
オクシタニー地域圏議長

“2023年は、日本とオクシタニーにとって、新たな素晴らしい歴史を刻む年となることでしょう！この美しい地方との強い絆を受け継ぎ、2007年と同様、ラグビーワールドカップに向けての準備をトゥールーズで行うという、プレイ・プロッサムズの選択を、とても嬉しく思います。ラグビーの情熱に満ちたこの場所で、日本代表がホームにいるかの如く過ごし、最適な練習環境、とりわけスタッド・トゥールーズの質の高い施設の恩恵を受けるであろうことは、間違いありません。

日本代表の受け入れを実現してくださった、トゥールーズ地域の全ての関係諸氏にお礼を申し上げます。”



クロード・アチェ
ラグビーワールドカップ2023組織委員会CEO

オクシタニー：ラグビーワールドカップ2023 日本代表のベースキャンプ地に選ばれる

▶ 実を結んだ地域圏の活動

オクシタニーと日本は組織として強い連携を保ち、多くの共通点があります。互いにその生活様式や産業分野で国際的な知名度を持ち、航空、自動車、観光、教育、文化など多岐にわたる交流が行われてきました。とくに地域の魅力向上と雇用面での期待の大きさから、オクシタニー地域圏は2016年より、国際活動の優先順位の上位に日本を置いています。

こうした連携の持続と強化を目的に、オクシタニー地域圏議長は多くの来日ミッションを実施しており、とくに日本で開催された2019年9月、ラグビーワールドカップ期間中の訪日は大事なものでした。この時、議長のキャロル・デルガと副議長のカメル・シブりは、2023フランス大会組織委員会との協定に署名し、大会期間中に日本代表を含むナショナルチームの受け入れ地となるべく立候補し、また、日本の関係諸氏と面会してオクシタニーの魅力と地域の持つインフラ水準についての説明を行いました。

今日、これらの活動はラグビーワールドカップ2023期間中に日本代表がトゥールーズをベースキャンプとして選択するという形で実を結びました。



2019年9月、東京。日本でのラグビーワールドカップ開催期間中、オクシタニーと2023年フランス大会組織委員会との協力協定にサインが取り交わされた。

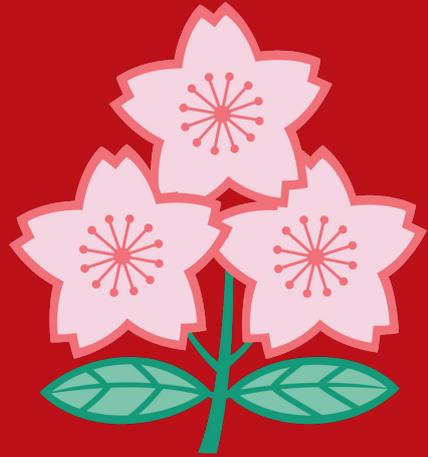
ラグビー日本代表プロフィール

愛称：ブレイブ・ブロッサムズ(勇敢な桜の花)

世界ランキング：10位（2022年5月時点）

この約10年ほどの間に、日本における代表チームの人気は、急速に高まっています。日本代表はワールドカップ2015年大会のプール戦で南アフリカに勝利(34-32)し、更に日本開催の2019年大会ではアイルランドを下し(19-12)、スコットランドを退け、プール戦1位となって準々決勝に進み、躍進を遂げています。

日本代表は、2023大会の試合会場であるスタジアム・ド・トゥールーズにて、既に試合経験があります。フランス開催のラグビーワールドカップ2007年大会にて、フィジー代表との対戦でした(2007年9月12日、31-35で敗戦)。



▶ ブレイブ・ブロッサムズ、2023年9月2日から一カ月半トゥールーズに滞在

日本代表は、大会のプール戦全期間、2023年9月2日から一カ月半を、トゥールーズに拠点を置いて活動します。この機に、ブレイブ・ブロッサムズは、主に地元プロクラブであるスタッド・トゥールーザンの施設を使用することになります。スタジアム・ド・トゥールーズで予定されている2試合に向けて、理想的環境での準備となることでしょう。

ベースキャンプ地となったことで、トゥールーズとオクシタニー地域圏は、大会組織委員会が日本チームのキャンプ設置のためにかける直接的な費用に加え、サポーター、パートナー、スポンサー、メディア、代表による消費活動からも、経済効果の恩恵を受けるものと見込まれます。

ベースキャンプ地に選ばれることで、オクシタニーへの注目度が上がり、フランス国外からの来訪者に向けて、当地域が持つ観光的なポテンシャルを開花させる絶好の機会となります。オクシタニーが日本のベースキャンプとなることで、日本と地域圏が築いてきた強固な絆を持続し強化する機会にもなります。

「オクシタニーを2023年ラグビーワールドカップの中心地に」 地域圏の取り組み

▶ オクシタニー、ラグビーの大地

19世紀末のフランスに伝えられて以来、ラグビーはオクシタニーに根を張り、そのスポーツ特性である他者への尊敬や祝祭的な価値観が、オクシタニーの文化の中で深い共鳴を呼び起こしてきました。フランスで最もラグビーが盛んな地域圏であるオクシタニーは、**ラグビーワールドカップ2023の中心地になる**という強い熱望を当然に抱き、この重要なイベントの試合を開催しチームを受け入れるべく、取り組んできました。

オクシタニー地域圏議長のキャロル・デルガとスポーツ部門担当の副議長カメル・シブリは、2019年ラグビーワールドカップの際に日本を訪れるなど、非常に早い段階で行動を起こしました。そこでオクシタニーは、地域圏として初めて、2023フランス大会組織委員会と協定を締結し、「**ホスト地域圏**」となり、その地でプレーし、ベースキャンプとして同地を選ぶチームの受け入れ条件全てを満たすべく、取り組んできました。

数字で見るオクシタニーにおけるラグビー

- 68 500 登録選手数(フランス全体で319 604)
- 426 地域圏全体のクラブ数(国全体で1933)
- オクシタニー地域リーグ: フランスで最大の地域リーグ
- 20 000 毎年、地域の約100のスクールでラグビーを始める子供の数
- 2021-2022シーズン: Top14(フランス1部)に4チームが所属(カストル、モンパリエ、トゥールーズ、ペルピニャン)
- 5 チームがPro D2(2部)に所属(ベジエ、カルカソンヌ、モントーバン、コロミエ、ナルボンヌ)
- 3 チームが女子エリート・アン(1部)に所属(トゥールーズ、ブラニャック、モンパリエ)
- 3 チームがナショナル(3部)に所属(ブラニャック、タルブ、アルビ)
- 6 度の優勝を過去10年に達成 (Top 14)
- プロリーグディビジョン登録クラブ数フランス最多地域
- 11 前回ラグビーワールドカップ日本大会フランス代表登録37人に占めるオクシタニー地域クラブ所属選手の数- 代表選手送出最多地域圏



▶ 実を結んだ取り組み：トゥールーズで5試合実施、2チームがオクシタニーをベースキャンプに選定

試合会場に選定されたフランス10都市の中で、スタジアム・ド・トゥールーズで5試合を開催するトゥールーズは、大会の中心的役割を担います。

- ▶ 日本 - アメリカ地区2位(2023年9月10日)
- ▶ ニュージーランド - アフリカ地区1位(2023年9月15日)
- ▶ ジョージア - 最終予選勝者(2023年9月23日)
- ▶ 日本 - サモア(2023年9月28日)
- ▶ フィジー - 最終予選勝者(2023年10月8日)

大会期間中のベースキャンプ地として、既に2チームがオクシタニーを選んでいますが：日本がトゥールーズ、サモアがモンペリエに滞在します。



© Datiche Nicolas - Région Occitanie

数字で見る2023年ラグビーワールドカップ

48 試合
20 チーム、660選手が出場
3 500~5 000人のボランティア
26億人のTV視聴者
3 000 人の記者が取材
60万人の訪問者見込み
1万7千の雇用創出と維持

フランス全土における予想経済効果予測:11億ユーロ
オクシタニー圏内観光経済効果予測: 6千300万ユーロ
大会からオクシタニーへのレガシーファンド:
500万ユーロ超

▶ オクシタニーへの経済効果は6300万ユーロと予測

雇用促進と地域のアピールという目的において、ラグビーワールドカップ2023は、オクシタニー地域圏にとって、絶好の機会です。地域圏への経済効果は6300万ユーロと予測され、とりわけ観光、レジャー、フード産業における直接・間接の雇用見込みは、大きなものとなっています。

このラグビーワールドカップの運営の支援を目的に、オクシタニー地域圏は、2020年、2023大会組織委員会に対する600万ユーロの助成金支出を認可し、組織委員会のトゥールーズ会場担当各班を、トゥールーズのCREPS(Centre de Ressources, d'Expertise et de Performance Sportives :スポーツ資源・専門技術・競技力向上センター)に3年間受け入れることに合意しました。

このパートナーシップを通じ、大会組織委員会とオクシタニー地域圏は、大会を成功させ、地域全域に利益がもたらされるよう取り組みを行っています。その活動には、以下のものがあります。

- ▶ 340人の研修生を採用する“キャンパス2023”を、オクシタニーで3年間実施：

2021年10月1日からラグビーワールドカップ2023の準備期間と大会期間中を通じ、18歳から30歳までの男女均等339人が、地域圏全土でスポーツ関連の職業での研修を受け、bac +1、bac + 3、bac + 5(※それぞれ日本の大学で学士課程1年、学士課程修了、修士課程修了に相当)の学位取得を目指すことになります。期間後、若い研修生たちが、イベントプロジェクトのチーフ、あるいはスポーツ活動のファシリテーターなどとして雇用されることを目標としています。キャンパス2023による採用人数において、オクシタニーはフランス最大の地域となっています。



- ▶ 地域圏のプロモーションと魅力増進： オクシタニー地域圏とその観光局(CRTL)は、世界中のサポーターを惹きつけ、トゥールーズで行われる試合を観戦し、更にはサポーターたちがオクシタニーを自分達の「ベースキャンプ」として選び、地域圏の魅力に触れたいと思って頂けるよう、動き出しています。CRTLは、今大会に関連する遠方市場のラグビーファンに向けた大規模キャンペーンを今年から展開し、よりローカルなキャンペーンについては2023年に行う予定です。
- ▶ 地域の生産者と「シュッド・ド・フランス(南フランス)」ブランドのプロモーションを、オクシタニー地域圏で行われるワールドカップ2023大会のあらゆる関連イベントに連携させる。
- ▶ スポーツの実践と社会的統合の促進： オクシタニーは地域圏内において、オクシタニー・ラグビー・リーグならびに傘下各クラブ、フランス学校スポーツ連合と加盟各団体の協力により、学校を卒業した若年層、クラブ、社会スポーツ団体、中高生を対象に、とくに都市政策優先地区において、社会的統合を促進する活動を調整しています：指導者によるラグビー体験教室、参加資格の優先的割り当てなど。

広報担当

オクシタニー/ ピレネー・メディテラネ地域圏

Région Occitanie / Pyrénées-Méditerranée

Mathilde Masson - +33 (0)6 07 75 52 82 | mathilde.masson@laregion.fr

ラグビーワールドカップ フランス2023

Coupe du Monde de Rugby France 2023

Carolyn Baque - +33 (0)6 63 04 86 60 | carolyn.baque@france2023.rugby